



7人の神様が住んでいる

「昔々ある所におじいさんとばあさんが暮らしていました。」

有名な桃太郎の冒頭部分です。

昨日、国語の時間に要約の学習をする際にも、この大変有名な昔話が登場しました。

ある年のことです。

小学一年生の子から「先生、『しばかり』って何？」と尋ねられたことがありました。

素朴な疑問ですが、意外とこれを正しく説明できる人は少ないです。

これまでに開催した講演会の冒頭で幾度か聴衆の方にお尋ねしましたが、大人でも色んなパターンの答えが出てきて会場が大変盛り上がりました。

『しばかり』と聞いて、鎌で草を刈る姿を浮かべる人がいれば、芝刈り機を使っている姿をイメージする人もいます。

しかし、おじいさんが実際に刈っているのは「芝」ではなく「柴」。

その意味は、「小さな木や雑木」のことです。

おじいさんは、落ちている枯木を拾っていたのです。

昔はそれを使って暖を取ったり、調理をしていたのですね。

要は、おじいさんは「燃料」を拾いに山に行っていたということです。

山に行って枯木を拾って帰って火を起こすまでにかかる時間は相当なものだったでしょう。

この「火を起こす」というタスクは、現代の暮らしではワンタッチ。

しかも数秒であっという間に火が付きます。凄まじいスピードです。

「便利さ」という観点では、比べ物になりません。

しかし、「豊かさ」という観点で見ると答えは若干変わってくるのではないのでしょうか。

あるテレビ番組で、こんな企画を目にしました。

100歳の方50人を集め、「人生で一番おいしかった食べ物は？」と尋ねる企画です。

ご高齢の方々は答えました。

3位はカレーライスでした。

2位はチョコレートでした。

そして、圧倒的な票差をつけて1位に輝いたのは・・・

「白米」(ごはん) でした。

今では当たり前のように食べられるようになった白いお米のご飯は、かつては何よりのごちそうでした。

滅多な事では食べられない、貴重な貴重なものだったそうです。

100年生きてきた中で、最もおいしかった食べ物が「ご飯」。

私はその放送を見ていて、普段口にしていない白米の有難さを改めて思いました。

現代は、当たり前のように白いご飯が食べられます。

スーパーには、パック詰めのお肉や魚が並んでいます。

テレビも自動車も、珍しい存在ではなくなりました。

他にも、食べ放題、飲み放題、歌い放題、使い放題、定額、サブスク…物だけではなく、あらゆるサービスが溢れている時代です。

でも、やっぱりそれは当たり前ではありません。

こうした「知」や「歴史」は誰かがつないであげないと、子どもたちはすっぽりと抜け落ちたまま大きくなっていきます。

それこそ、全ての物が「当たり前」だと感じながら。

「昔の暮らしに戻ろう」ということを言いたいわけではありません。

「便利さ」を追求する中で見失った「豊かさ」があるのなら、そうしたことを見つめてみることも大切な学びだと思うのです。

近年はキャンプブームが世間を席卷していますが、それもこの「豊かさ」と大いに関係していると思えてなりません。

加速的に便利さを増す世の中だからこそ、豊かさとは何かを考える機会を大切にしていきたいと思っています。

原田マハという作家をご存じでしょうか。

最近特にお気に入りの作家で、作品のほとんどを私は読みました。

最初に読んだのは、「本日はお日柄も良く」でした。

最近で言うと、「キネマの神様」や「異邦人」「奇跡の人」が面白かったです。

そして、教育や子育てに強く関連する作品で言うなら、『生きるぼくら』という作品が最もおすすめです。

お話の中心題材は、「おにぎり」です。

そのおにぎりをモチーフとして、引きこもり、就職難、認知症、介護、対人恐怖症、過疎などなど、現代社会が抱える様々な課題を語り進めていく作品です。タイトルの通り、「生きる」ことへの意欲と、希望と、活力が泉のようにわいてくる名作でした。

読み切った後の清々しい読了感と重厚な感動。

きっと多くの方の胸に響く作品だと思います。

さて、作品中でモチーフとして描かれている「おにぎり」、そして「米」でした。

お話に登場する“マーサばあちゃん”のセリフが、いちいち心に響きます。

「お米の一生は、なんだか人の一生に似ている。」

「おにぎりは、どうしていいかたちかっていうと、人の手でむすばれた形をしているから。」

「1粒の米にはね、7人の神様が住んでいるのよ。」

生きることは食べること、食べることは命をいただくこと。

作品を読み終えた後、食卓に上がったホカホカのご飯を見て、グッと胸に迫るものがありました。

「米」という漢字を分解すると八十八になります。

米を作るのには、88もの手間と作業が必要なことから、この漢字が使われるようになったそうです。

これだけたくさんの仕事を通して、食卓にご飯が上がっているんですね。

日本人と米との関係は深く長く結びついています。

参考までに、米にまつわることわざを紹介します。

1.米一粒汗一粒

お米をつくるには、大変な苦勞がいるということ。

2.御飯粒を残す人は出世しない

ご飯を大事にしない人(食べ散らかす人)は出世しないということ。

3.米の飯は仕事する

お米の飯は身体に力が入り、仕事がよくはかどるということ。または、よく働くものはよく食べるの意。

4.米の飯より思(おぼ)し召し

白米は重要な主食、しかしそれよりも、人の思いやりのほうがありがたいということ。

5.米は実が入れば俯(うつむ)く、人間は実が入れば仰向(あおむ)く

稲穂は、実れば実るほど垂れてくるが、人間は、偉くなるほど上を向いて威張るようになるということ。

6.米櫃(こめびつ)を潤(うるお)す

米櫃に米を満たすという意味で、利益を得ることや、お金を儲けること。

7.米を数えて炊く

つまらないことに気を遣うこと。細かいことにこせこせしては、大事を成すことはできないという戒め。また、物惜しみをするとえ。

8.米を零(こぼ)すと目が潰(つぶ)れる

お米を大切にしなさいという戒め。

9.米を百里の外に負う

自分は貧しい暮らしをし、親に孝行を尽くすこと。

10.三度の飯も強し柔らかし

毎日炊くご飯でさえ固かったり柔らかかったりしてなかなか思うようにいかないものだ。ましてや世の中のことはなおさらだということ。

SOLANでは、毎日給食にご飯が出ます。

そのご飯を、最近綺麗に食べる子が増えてきました。

それだけではありません。

「感謝を込めていただきます」と一言添えてから給食を食べ始めていますが、その所作に最近はずいぶん美しさが伴うようになりました。



去年、あるクラスで私が給食と一緒に食べた時のことです。
一人の男の子が、手を合わせて目を閉じました。
机の上には、既に給食が準備されています。
その状態で、男の子はしばらく手を合わせ続けました。
私はその姿に目を奪われました。
あまりに美しく崇高なものに見えたからです。
その後、男の子は静かに目を開けて言いました。
「感謝を込めて、いただきます。」

1年生で、こんなに素敵な「いただきます」をしている姿を私はかつて見たことがありませんでした。

「いただきますとは、『命をいただきます』という意味なんだよ」
4年生の教室でも4月にこのことを伝えてから、1か月がたちました。
言葉の意味や価値、そしてそれらを伴う所作に込められた思い、命のありがたさや大切さ。

食の機会を通じて、これからも伝え続けていこうと思います。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

